

バブルがはじけた時と、私の妻の躁鬱病が悪化した時期は、ちょうど同じ頃でした。私はその頃は、全国の会長として業界の再建に東奔西走しておりました。

しかし、このまま妻の病氣介護、会社の発展、業界の再建と三足のわらじを履いていたのでは無理だと判断して、自社の社長を先ず息子へと譲りました。その他の役職もほとんど辞退させていただき、業界の再建と妻の病氣治療に専念致すようになりました。

業界の再建は、20年かかると予想されていましたが、私は6年間で再建すると約束して、北海道から九州まで、妻の介護のため、日帰りで頑張りました。業界再建の大役は、同僚友人に恵まれて、奇跡的にも4年間で黒字になりました。私は、6年の任期を4年間で退任させていただきました。

今度は妻の病氣介護に専念しました。

妻はかなり重度の躁鬱病でしたが、こちらも奇跡的にも2年で完治することが出来ました。躁鬱病には家族愛が最大の特效薬だと知りました。

この数年の不況の中で気が付いたことは、日本の男の世界には「つきあい」という風習があって、「つきあいが悪い」と言われている事が「仲間はずれにされる」と恐れてきました。宴会が終わってから、2次会・3次会、早くて11時、午前様になる事もあります。

同族会社では、家族が犠牲になり、まして私の妻の様な病氣にはストレスが多くなり、精神的負担が多くなります。

以来、私は決心して一次会以降はきっぱりと止めました。付き合いだからと言う宴会、ゴルフ、マージャンは家族や社員から見れば遊びにしか見えないことにも気が付いたからでもあります。

不況の中で本当の経営の厳しさを知った何人かの私の友人達は、家族ぐるみで頑張っ、また戻って来ますから・・・と、ロータリークラブを退会して行きました。出処進退を知る、すばらしい決心だと感動しています。この決意ならきっと元気になって帰って来ると、今から楽しみにいたしております。

今、人はそんな生き方を「たそがれ清兵衛」と言います。

山田洋次監督の作品がいつも大ヒットし続けているのは、こうした家族ぐるみの愛情が絆となって、貧乏や不遇に耐えて、やがて辛抱してつかむ感動に共感を覚えるからであります。